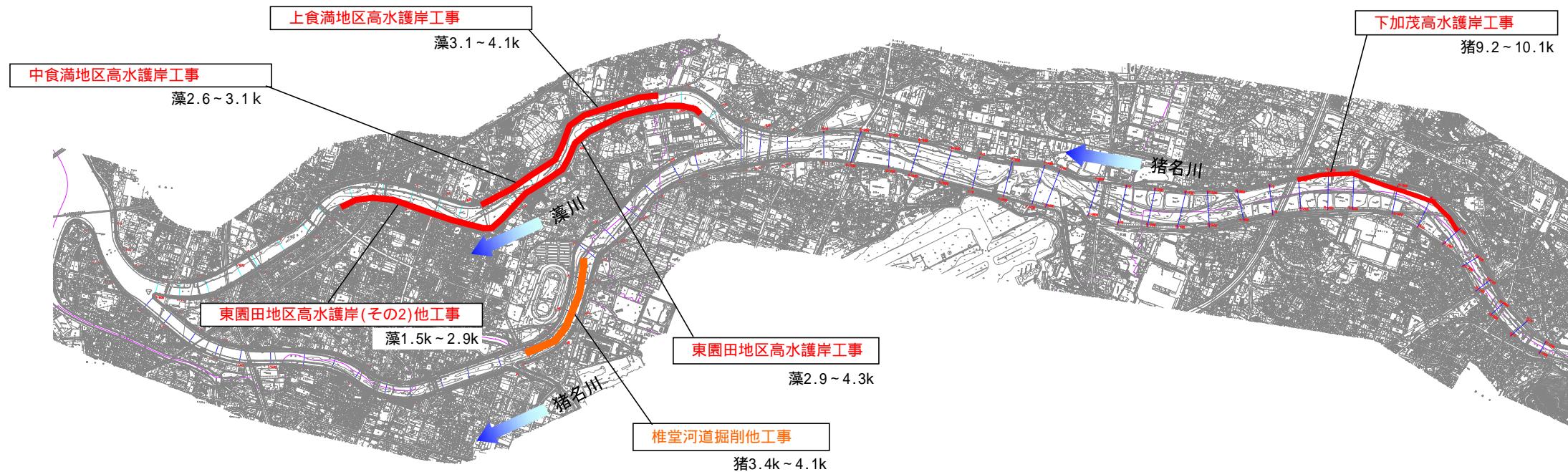


## 平成 22 年度 工事事後調査結果報告について

国土交通省 近畿地方整備局  
猪名川河川事務所

## 平成22年度 工事箇所位置図



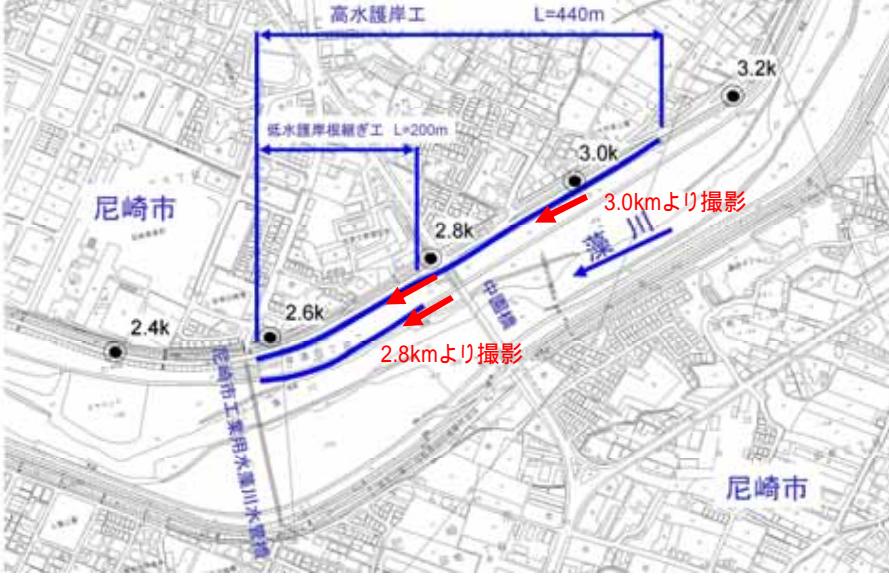
## 平成22年度 工事箇所の概要

| 工事名(仮称)           | 工事区間               | 工事内容  | 備考 |
|-------------------|--------------------|---|----|
| 中食満地区高水護岸工事       | 藻川2.6k~3.1k付近 右岸   | 高水護岸工 L = 440m<br>低水護岸根継工 L=200m  |    |
| 上食満地区高水護岸工事       | 藻川3.1k~4.1k付近 右岸   | 高水護岸工 L = 1,050m<br>低水護岸根継工 L=330m<br>護岸保護工 L = 1,050m<br>天端舗装工 A=1,450m <sup>2</sup> |    |
| 東園田地区高水護岸他工事      | 藻川2.9k~4.3k付近 左岸   | 高水護岸工 L = 1,330m<br>護岸保護工 L = 1,330m  |    |
| 東園田地区高水護岸(その2)他工事 | 藻川1.5k~2.9k付近 左岸   | 高水護岸工 L = 1,170m<br>護岸保護工 L = 650m<br>天端舗装工 A=1,110m <sup>2</sup>                     |    |
| 椎堂河道掘削他工事         | 猪名川3.4k~4.1k付近     | 掘削工 V=15,000m <sup>3</sup><br>根固工 N = 372個  |    |
| 下加茂高水護岸工事         | 猪名川9.2k~10.1k付近 右岸 | 高水護岸工 L = 1,040m  |    |

## 平成22年度 工事施工箇所の評価

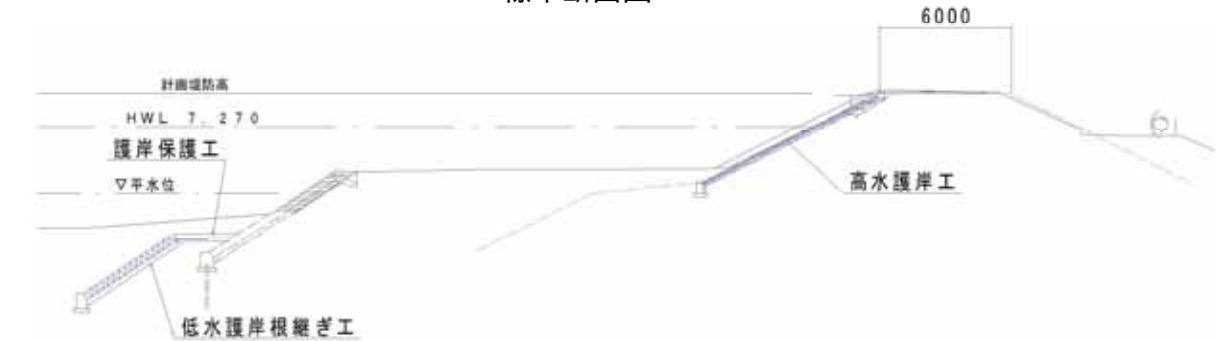
| 工事名(仮称)           | 工事区間               | 工事内容  | 事前調査重要種  | 第8回 構造検討部会 方針  | 事後調査重要種   | 評価   |
|-------------------|--------------------|---|--|--|---|--|
| 中食満地区高水護岸工事       | 藻川2.6k~3.1k付近 右岸   | 高水護岸工 L=440m<br>低水護岸根継工 L=200m  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:なし</li> <li>鳥類:ササゴイ、ミサゴ、チョウゲンボウ、メボソムシクイ、コサメビタキ</li> <li>底生動物:ミドリビル、ミゾレヌマエビ、クロベンケイガニ、ホソヨコミゾドロムシ</li> <li>陸上昆虫類:なし</li> <li>小動物:ニホンヤモリ、カヤネズミ</li> <li>魚類:ウナギ、ゲンゴロウブナ、タモロコ、カマツカ、ギギ、ゴクラクハゼ</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の重要種が工事箇所対象外であるため、仮設等の施工時対策の影響が出ないよう配慮することで了承する。</li> <li>堤防の植物を調査し、生息種および重要種の有無を把握する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:なし</li> <li>鳥類:ササゴイ、イソシギ</li> <li>底生動物:モノアラガイ、キイロサンナエ、ヨコミゾドロムシ、クロベンケイガニ</li> <li>陸上昆虫類:ヤマトアオドウガネ</li> <li>小動物:ニホンヤモリ、カヤネズミ</li> <li>魚類:カマツカ、コウライモロコ、ギギ、メダカ、カワアナゴ、ウキゴリ、ゴクラクハゼ、ウナギ、ゲンゴロウブナ</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:調査区域及び工事実施区域に重要種は存在せず影響はなかった。</li> <li>動物等:動物については、カヤネズミ等の小動物が確認されている。その他の動物についても確認種数がふえており、影響は少なかったと考えられる。</li> </ul>   |
| 上食満地区高水護岸工事       | 藻川3.1k~4.1k付近 右岸   | 高水護岸工 L=1,050m<br>低水護岸根継工 L=330m<br>護岸保護工 L=1,050m<br>天端舗装工 A=1,450m <sup>2</sup> | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:カワヂシャ、ゴキヅル</li> <li>鳥類:ササゴイ、イカルチドリ、イソシギ、カワセミ、コサメビタキ</li> <li>底生動物:モノアラガイ、ミドリビル、ミゾレヌマエビ、ヨコミゾドロムシ、ホソヨコミゾドロムシ</li> <li>ムシ</li> <li>陸上昆虫類:ヒメクダマキモドキ</li> <li>小動物:ジムグリ、アオダイショウ、カヤネズミ</li> <li>魚類:カマツカ、コウライモロコ、ドジョウ、ギギ、メダカ、トンコ、ゴクラクハゼ</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の重要種が工事箇所対象外であるため、仮設等の施工時対策の影響が出ないよう配慮することで了承する。</li> <li>堤防の植物を調査し、生息種および重要種の有無を把握する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:ゴキヅル、</li> <li>鳥類:ササゴイ、チョウゲンボウ、イソシギ、タシギ、カワセミ、ハクセキレイ、ノビタキ</li> <li>底生動物:ミドリビル、キイロサンナエ、ヒメモノアラガイ</li> <li>陸上昆虫類:ヒメクダマキモドキ</li> <li>小動物:イタチ属の一種</li> <li>魚類:カマツカ、コウライモロコ、ドジョウ、ギギ、メダカ、トンコ、ウキゴリ、ゴクラクハゼ</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:工事実施区域に重要種は存在せず影響はなかった。工事区域外では、ゴキヅルが確認されたが、カワヂシャは確認されなかった。工事区域外であり、工事の影響は考えられない。</li> <li>動物等:カヤネズミ等の小動物が確認されず、他の地区へ移動したものと考えられる。他の動物の種数の出現は増えている。</li> </ul>                            |
| 東園田地区高水護岸工事       | 藻川2.9k~4.3k付近 左岸   | 高水護岸工 L=1,330m<br>護岸保護工 L=1,330m  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:なし</li> <li>鳥類:ササゴイ、チョウゲンボウ、イソシギ、カワセミ、ノビタキ、</li> <li>底生動物:—</li> <li>陸上昆虫類:ムスジイトンボ、スズムシ、キアシハナダカバチモドキ</li> <li>小動物:ヤモリ、カヤネズミ、</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の重要種が工事箇所対象外であるため、仮設等の施工時対策の影響が出ないよう配慮することで了承する。</li> <li>堤防の植物を調査し、生息種および重要種の有無を把握する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:なし</li> <li>鳥類:ササゴイ、イソシギ、カワセミ</li> <li>底生動物:なし</li> <li>陸上昆虫類:ヒメコオロギ、オオサカヒラタシデムシ</li> <li>小動物:カヤネズミ、イタチ属の一種</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:調査区域及び工事実施区域に重要種は存在せず影響はなかった。</li> <li>動物等:カヤネズミ等の小動物が確認されたが、堤防上で確認されていたムスジイトンボ、キアシハナダカバチモドキが確認できず、影響を受けた可能性がある。</li> </ul>  |
| 東園田地区高水護岸(その2)他工事 | 藻川1.5k~2.9k付近 左岸   | 高水護岸工 L=1,170m<br>護岸保護工 L=650m<br>天端舗装工 A=1,110m <sup>2</sup>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:カワジシャ</li> <li>鳥類:ササゴイ、イソシギ、カワセミ、コチドリ、ミサゴ</li> <li>底生動物:—</li> <li>陸上昆虫類:オオサカヒラタシデムシ</li> <li>小動物:ニホンヤモリ、カヤネズミ、イタチ属の一種、ヤモリ</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の重要種が工事箇所対象外であるため、仮設等の施工時対策の影響が出ないよう配慮することで了承する。</li> <li>堤防の植物を調査し、生息種および重要種の有無を把握する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:なし</li> <li>鳥類:コチドリ、イソシギ、ハクセキレイ、ノビタキ</li> <li>底生動物:なし</li> <li>陸上昆虫類:なし</li> <li>小動物:ニホンイシガメ、アオダイショウ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:事実施区域に重要種は確認されていなかった。なお、工事区域外の調査区域にカワジシャが、工事区域から離れており影響したとは考えられない。</li> <li>動物等:堤防上のカヤネズミ、ニホンヤモリは確認されず、影響したと考えられる。</li> </ul>  |
| 椎堂河道掘削他工事         | 猪名川3.4k~4.1k付近     | 掘削工 V=15,000m <sup>3</sup><br>根固工 N = 372個  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:ヒメソハギ</li> <li>鳥類:ササゴイ、ハヤブサ、イカルチドリ、イソシギ、カワセミ、ノビタキ、セッカ、コサメビタキ、コムクドリ</li> <li>底生動物:ミドリビル、ヨコミゾドロムシ、ホソヨコミゾドロムシ</li> <li>陸上昆虫類:シルビアシジミ、オオサカヒラタシデムシ</li> <li>小動物:ニホンヤモリ、カヤネズミ、イタチ属の一種</li> <li>魚類:ウナギ、タモロコ、カマツカ、コウライモロコ、ギギ、メダカ、カワアナゴ、ウキゴリ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>猪名川3.7~4.1kmカヤネズミの生息地であるオギ群落があるため、施工は、オギ群落を残して、他の区域を掘削することで流下能力の確保を図る方策を検討する。</li> <li>猪名川3.4~3.7kmは工事を了承する。</li> <li>服部委員、村上委員に現地確認および先のオギ群落を残した流下能力確保案の確認をお願いする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:なし</li> <li>鳥類:ササゴイ、イソシギ、カワセミ、ハクセキレイ</li> <li>底生動物:ヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ヨコミゾドロムシ</li> <li>陸上昆虫類:シルビアシジミ、オオサカヒラタシデムシ</li> <li>小動物:アオダイショウ、カヤネズミ、イタチ属の一種</li> <li>魚類:ウナギ、ゲンゴロウブナ、タモロコ、カマツカ、コウライモロコ、ドジョウ、ギギ、メダカ、カワアナゴ、ウキゴリ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:掘削区域の変更をすることにより、オギの生息環境を保全することが出来た。</li> <li>動物等:オギを残すことによりカヤネズミの生息が確認され、生物環境を守ることが出来た。</li> <li>魚類:事後にあいても多くの貴重種が確認され、生息区域の保全が図られたと考えられる。その他の生物も多く確認されており、自然環境の保全・創出されたと考える。</li> </ul> |
| 下加茂高水護岸工事         | 猪名川9.2k~10.1k付近 右岸 | 高水護岸工 L=1,040m  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:なし</li> <li>鳥類:なし</li> <li>底生動物:—</li> <li>陸上昆虫類:なし</li> <li>小動物:—</li> </ul> <p>直接改変箇所およびその周辺では、動植物の重要な種および特筆すべき生育・生息環境は確認されなかった。</p>   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物:ノウルシ、カワジシャ</li> <li>鳥類:チョウゲンボウ、イソシギ、カワセミ、ハクセキレイ</li> <li>底生動物:なし</li> <li>陸上昆虫類:なし</li> <li>小動物:イタチ属の一種</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>事後調査において植物・動物類の重要種が確認されていることから、工事による影響は少ないと考えられる。</li> </ul>  |

## 中食満地区高水護岸他工事

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 担当課：工務課                       |   |
| 工事名称                          | 中食満地区高水護岸他工事  |
| 工事目的                          | 的<br><br>内容<br>高水護岸工 L=440m<br>低水護岸根継工 L=200m   |
| 工事場所                          | 尼崎市食満 藤川2.6~3.1km付近 右岸  |
| 工事期間                          | 平成22年3月 ~ 平成22年12月  |
| 工事位置図<br>断面図 等                |    |
| 自然環境の把握状況<br>(主に特定種の情報など)     | <p>魚類: (平成19年度河川水辺の国勢調査)<br/>対象区域上流(3.6k~4.2k)でウキゴリ、ウナギ、カワアナゴ、ギギ、コウライモロコ、タウナギ、タモロコ、ドジョウ、メダカが確認されている。</p> <p>底生動物: (平成20年度河川水辺の国勢調査)<br/>対象区域上流(3.6k~4.2k)でナガオカモノアラガイが確認されている。</p> <p>植物: (平成16年度河川水辺の国勢調査)<br/>2.7k地点でクサボケが堤防法面で確認されている(平成16年度河川水辺の国勢調査)</p> <p>鳥類: (平成18年度河川水辺の国勢調査)<br/>3.0k地点でアオジ、カンムリカツブリ、ササゴイが確認されている。</p> |
| 調査の考え方                        | 底生動物でナガオカモノアラガイが上流域で確認されており、植物でもクサボケが確認されていることから、施工前の調査が必要である。  |
| 環境上の配慮事項(案)                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>水域の低水護岸根継ぎ工事は、締め切り後、魚介類を川に戻す。</li> <li>高水護岸工事は、クサボケ等重要種を移植する(クサボケはしばらく養生後、移植する)。</li> </ul>  |
| 上記の配慮を達成するための設計上、施工上の工夫・改良(案) | <ul style="list-style-type: none"> <li>工事による濁水が最小限となるように努める。</li> <li>掘削箇所以外の水域の搅乱(締め切り、重機進入路等)を最小限にとどめる。</li> </ul>  |
| 調査方針(案)                       | 工事前に現状を把握する調査を実施し、重要種等の特筆事項を把握する。また、重要種等については、工事前に保全対策を施し、工事後に簡易状況調査により確認する。  |
| 事前調査結果                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物: なし</li> <li>鳥類: ササゴイ、ミサゴ、チョウゲンボウ、メボソムシクイ、コサメビタキ</li> <li>底生動物: ミドリビル、ミゾレヌマエビ、クロベンケイガニ、ホソヨコミゾドロムシ</li> <li>陸上昆虫類: なし</li> <li>小動物: ニホンヤモリ、カヤネズミ</li> <li>魚類: ウナギ、ゲンゴロウブナ、タモロコ、カマツカ、ギギ、ゴクラクハゼ</li> </ul>   |



標準断面図



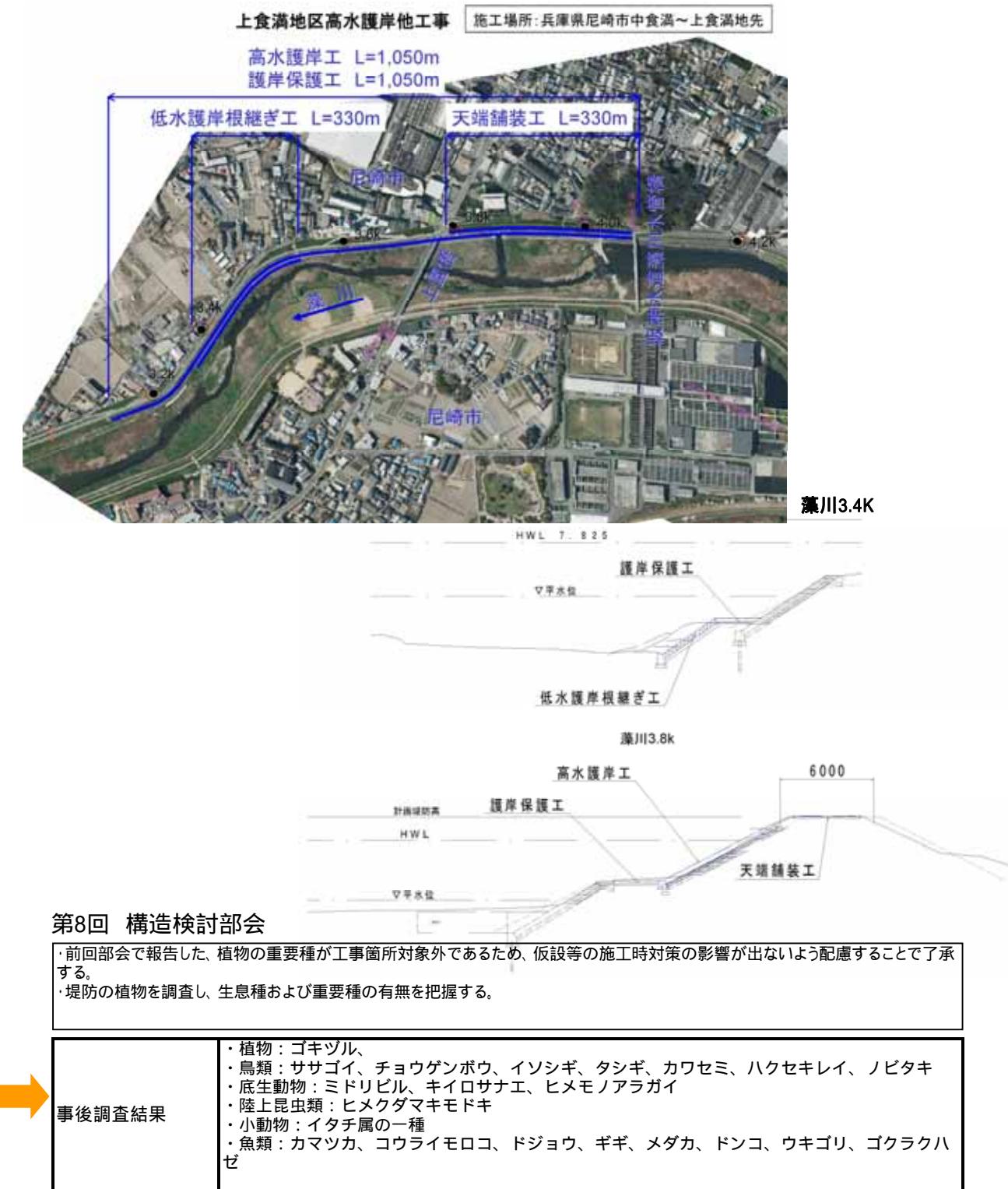
### 第8回 構造検討部会

前回部会で報告した、植物の重要種が工事箇所対象外であるため、仮設等の施工時対策の影響が出ないよう配慮することで了承する。  
堤防の植物を調査し、生息種および重要種の有無を把握する。

|        |   |
|--------|---|
| 事後調査結果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物: なし</li> <li>鳥類: ササゴイ、イソシギ</li> <li>底生動物: モナラガイ、キイロサンエ、ヨコミゾドロムシ、クロベンケイガニ</li> <li>陸上昆虫類: ヤマトアオドウガネ</li> <li>小動物: ニホンヤモリ、カヤネズミ</li> <li>魚類: カマツカ、コウライモロコ、ギギ、メダカ、カワアナゴ、ウキゴリ、ゴ克拉クハゼ、ウナギ、ゲンゴロウブナ</li> </ul> |
|--------|---|

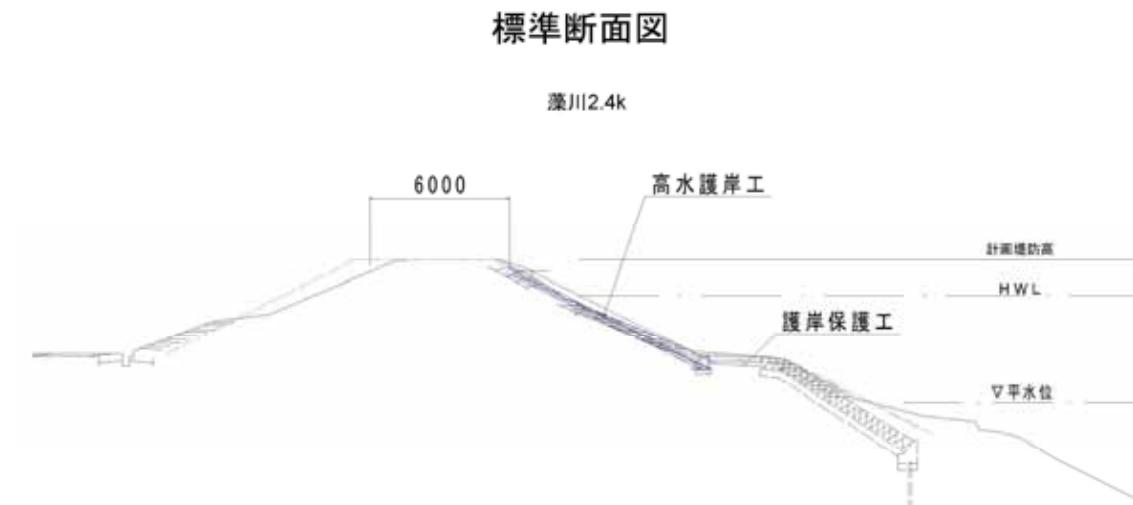
## 上食満地区高水護岸他工事

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 担当課：工務課                       |   |
| 工事名称                          | 上食満地区高水護岸他工事  |
| 工事目的                          | 的<br><br>内容<br>高水護岸工 L=1050m 護岸保護工 L=1050m<br>低水護岸根継工 L=330m 天端舗装工 A=1450m <sup>2</sup>   |
| 工事場所                          | 尼崎市食満～尼崎市猪名寺 藻川3.1k～4.1k付近 右岸   |
| 工事期間                          | 平成22年3月～平成22年12月  |
| 工事位置図<br>断面図 等                |   |
| 自然環境の把握状況<br>(主に特定種の情報など)     | 魚類：(平成19年度河川水辺の国勢調査)<br>3.6k～4.2kでウキゴリ、ウナギ、カワアナゴ、ギギ、コウライモロコ、タウナギ、タモロコ、ドジョウ、メダカが確認されている<br>底生動物：(平成20年度河川水辺の国勢調査)<br>3.6k～4.2kでナガオカモノアラガイが確認されている<br>鳥類：(平成18年度河川水辺の国勢調査)<br>4.0k地点でアオジ、イカルチドリ、カワセミ、ササゴイが確認されている<br>小動物：(平成15年度河川水辺の国勢調査)<br>3.2k地点でカヤネズミ(1個体)が確認されている |
| 調査の考え方                        | 底生動物でナガオカモノアラガイが確認されていることから、施工前の調査が必要である。   |
| 環境上の配慮事項(案)                   | ・水域の低水護岸根継ぎ工事は、締め切り後、魚介類を川に戻す。  |
| 上記の配慮を達成するための設計上、施工上の工夫・改良(案) | ・工事による濁水が最小限となるように努める。<br>・掘削箇所以外の水域の搅乱(締め切り、重機進入路等)を最小限にとどめる。  |
| 調査方針(案)                       | 工事前に現状を把握する調査を実施し、重要種等の特筆事項を把握する。また、重要種等については、工事前に保全対策を施し、工事後に簡易状況調査により確認する。  |
| 事前調査結果                        | ・植物：カワヂシャ、ゴキツル<br>・鳥類：ササゴイ、イカルチドリ、イソシギ、カワセミ、コサメビタキ<br>・底生動物：モノアラガイ、ミドリビル、ミゾレヌマエビ、ヨコミゾドロムシ、ホソヨコミゾドロムシ<br>・陸上昆虫類：ヒメクダマキモドキ<br>・小動物：ジムグリ、アオダイショウ、カヤネズミ<br>・魚類：カマツカ、コウライモロコ、ドジョウ、ギギ、メダカ、ドンコ、ウキゴリ、ゴクラクハゼ   |



## 東園田地区高水護岸他工事

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 担当課：工務課                       |   |
| 工事名称                          | 東園田地区高水護岸他工事  |
| 工事目的                          | 的<br><br>内容<br>高水護岸工 L=1330m<br>護岸保護工 L=1330m   |
| 工事場所                          | 尼崎市田能～伊丹市口酒井 藻川2.9k～4.3k付近 左岸   |
| 工事期間                          | 平成22年3月～平成22年12月  |
| 工事位置図<br>断面図 等                |    |
| 自然環境の把握状況<br>(主に特定種の情報など)     | 魚類: (平成19年度河川水辺の国勢調査)<br>3.6k～4.2kでウキゴリ、ウナギ、カワアナゴ、ギギ、コウライモロコ、タウナギ、タモロコ、ドジョウ、メダカが確認されている<br>底生動物: (平成20年度河川水辺の国勢調査)<br>3.6k～4.2kでナガオカモノアラガイが確認されている<br>植物: (平成16年度河川水辺の国勢調査)<br>4.2k地点でゴキヅル、カワジシャが搅乱の受けやすい低水敷水際の過湿立地で確認されている<br>鳥類: (平成18年度河川水辺の国勢調査)<br>3.0k地点でアオジ、カンムリカツブリ、ササゴイが、4.0k地点でアオジイカルチドリ、カワセミ、ササゴイ確認されている |
| 調査の考え方                        | 植物でゴキヅル、カワジシャが確認されていることから、施工前の調査が必要である。   |
| 環境上の配慮事項(案)                   | ・高水護岸工事は、ゴキヅル、カワジシャ等重要種を移植する。   |
| 上記の配慮を達成するための設計上、施工上の工夫・改良(案) | ・調査結果より、高水護岸工事時に重要種を移植する。   |
| 調査方針(案)                       | 工事前に現状を把握する調査を実施し、重要種等の特筆事項を把握する。また、重要種等については、工事前に保全対策を施し、工事後に簡易状況調査により確認する。  |
| 事前調査結果                        | ・植物: なし<br>・鳥類: ササゴイ、チョウゲンボウ、イソシギ、カワセミ、ノビタキ、<br>・底生動物: -<br>・陸上昆虫類: ムスジイトトンボ、スズムシ、キアシハナダカバチモドキ<br>・小動物: ヤモリ、カヤネズミ、  |



### 第8回 構造検討部会

前回部会で報告した、植物の重要種が工事箇所対象外であるため、仮設等の施工時対策の影響が出ないよう配慮することで了承する。  
堤防の植物を調査し、生息種および重要種の有無を把握する。

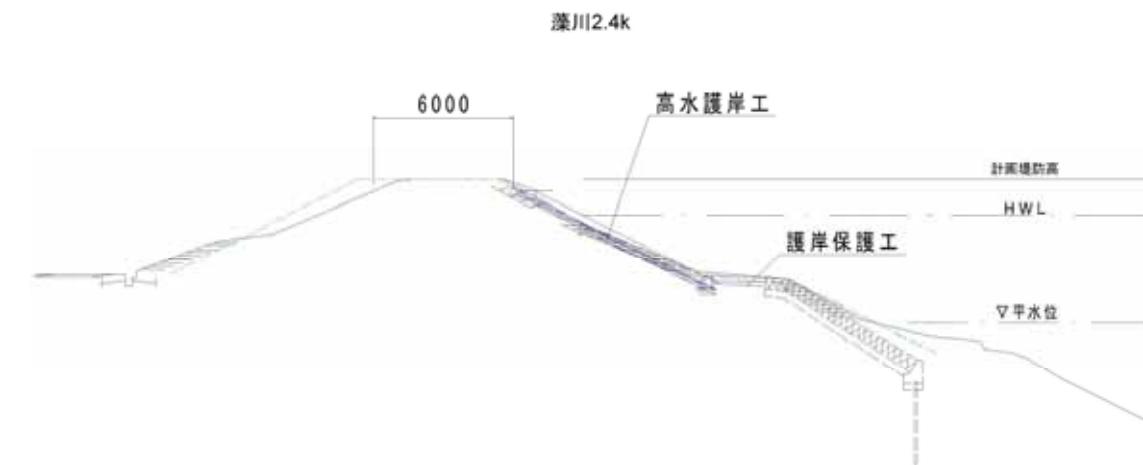
|        |   |
|--------|---|
| 事後調査結果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物: なし</li> <li>鳥類: ササゴイ、イソシギ、カワセミ</li> <li>底生動物: なし</li> <li>陸上昆虫類: ヒメコオロギ、オオサカヒラタシデムシ</li> <li>小動物: カヤネズミ、イタチ属の一種</li> </ul> |
|--------|---|

## 東園田地区高水護岸(その2)他工事

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| 担当課：工務課                       |  |
| 工事名称                          | 東園田地区高水護岸(その2)他工事  |
| 工事目的                          | 的<br><br>内容<br>高水護岸工 L=1170m<br>護岸保護工 L=650m<br>天端舗装工 L=1110m <sup>2</sup>   |
| 工事場所                          | 尼崎市東園田～尼崎市田能 藻川1.5k～2.9k付近 左岸  |
| 工事期間                          | 平成22年3月～平成22年12月   |
| 工事位置図<br>断面図 等                |   |
| 自然環境の把握状況<br>(主に特定種の情報など)     | <p>魚類: (平成19年度河川水辺の国勢調査)<br/>対象区域上流(3.6k～4.2k)でウキゴリ、ウナギ、カワアナゴ、ギギ、コウライモロコ、タウナギ、タモロコ、ドジョウ<br/>メダカが確認されている。</p> <p>底生動物: (平成20年度河川水辺の国勢調査)<br/>対象区域上流(3.6k～4.2k)でナガオカモノアラガイが確認されている。</p> <p>植物: (平成16年度河川水辺の国勢調査)<br/>1.8k地点でカワジシャが阪急藻川橋梁の根固の砂泥堆積地で確認されている。</p> <p>鳥類: (平成18年度河川水辺の国勢調査)<br/>2.0k地点でアオジ、オオヨシキリ、タシギ、イソシギ、が確認されている。</p> |
| 調査の考え方                        | 植物でカワジシャが確認されていることから、施工前の調査が必要である。   |
| 環境上の配慮事項(案)                   | ・高水護岸工事は、カワジシャ等重要種を移植する。   |
| 上記の配慮を達成するための設計上、施工上の工夫・改良(案) | ・調査結果より、高水護岸工事時に重要種を移植する。  |
| 調査方針(案)                       | 工事前に現状を把握する調査を実施し、重要種等の特筆事項を把握する。また、重要種等については、工事前に保全対策を施し、工事後に簡易状況調査により確認する。   |
| 事前調査結果                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物: カワジシャ</li> <li>鳥類: ササゴイ、コチドリ、イソシギ、ミサゴ、カワセミ</li> <li>底生動物: -</li> <li>陸上昆虫類: オオサカヒラタシデムシ</li> <li>小動物: ニホンヤモリ、カヤネズミ、イタチ属の一種、ヤモリ</li> </ul>   |



標準断面図



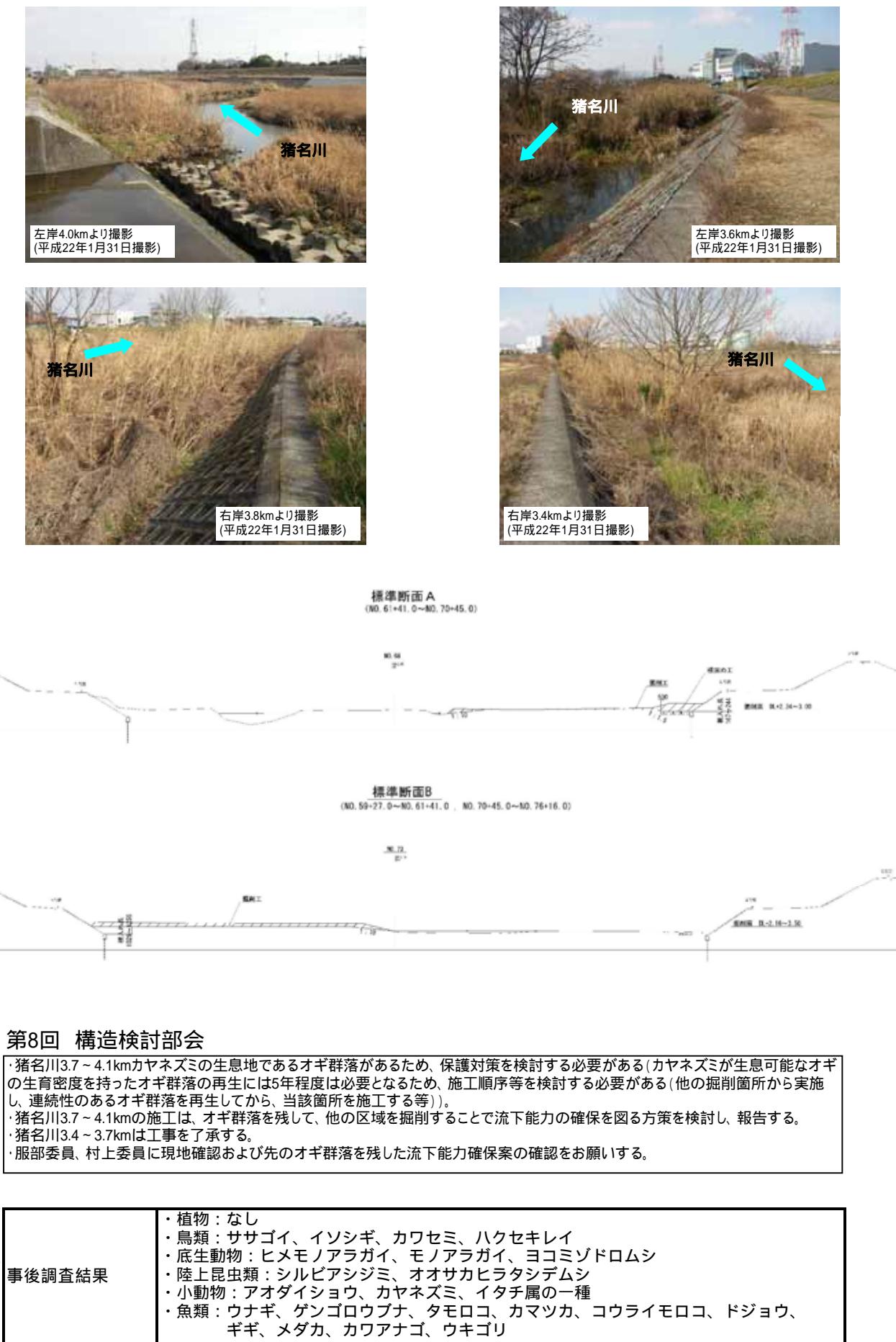
### 第8回 構造検討部会

・前回部会で報告した、植物の重要種が工事箇所対象外であるため、仮設等の施工時対策の影響が出ないよう配慮することで了承する。  
・堤防の植物を調査し、生息種および重要種の有無を把握する。

|        |  |
|--------|--|
| 事後調査結果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物: なし</li> <li>鳥類: コチドリ、イソシギ、ハクセキレイ、ノビタキ</li> <li>底生動物: なし</li> <li>陸上昆虫類: なし</li> <li>小動物: ニホンイシガメ、アオダイショウ</li> </ul> |
|--------|--|

## 椎堂河道掘削他工事

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 担当課：工務課                           |  |
| 工事名称                              | 椎堂河道掘削他工事  |
| 工事目的                              | 的<br><br>内容<br>掘削工 $V=15000m^3$<br>根固工 $N=372$ 個   |
| 工事場所                              | 尼崎市椎堂～伊丹市岩屋 猪名川3.4km～4.2km付近   |
| 工事期間                              | 平成22年3月～平成22年12月   |
| 工事位置図<br>断面図等                     |   |
| 自然環境の把握状況<br>(主に特定種の情報など)         | 鳥類: (平成18年度河川水辺の国勢調査)<br>3.0km地点でオオヨシキリ、マガモが、3.4km地点でイカルチドリが確認されている<br>植物: (平成16年度河川水辺の国勢調査)<br>3.9km地点でゴキツルが岩屋排水樋門下流の低水敷内のヨシ原で確認されている   |
| 工事から大きな影響が想定される種<br>工事から影響が想定される種 |  |
| 調査の考え方                            | 魚類、底生動物の水国調査が、猪名川0.4km～0.6km、5.4km～6.0kmで実施されており、当該区域は定点調査から漏れていいるため、事前調査が必要である。<br>河道内の植物、鳥類、陸上昆虫、底生動物、両生類・爬虫類・哺乳類、魚類の調査を実施する。  |
| 環境上の配慮事項(案)                       | 河道内の掘削であるため、工事前に現状を把握する調査を実施し、現状の河川環境や重要種等の特筆事項を把握する。この調査結果より、配慮事項等を検討する。  |
| 上記の配慮を達成するための設計上、施工上の工夫・改良(案)     |  |
| 調査方針(案)                           | 工事前に現状を把握する調査を実施し、重要種等の特筆事項を把握する。また、重要種等については、工事前に保全対策を施し、工事後に簡易状況調査により確認する。   |
| 事前調査結果                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物: ヒメミソハギ</li> <li>鳥類: ササゴイ、ハヤブサ、イカルチドリ、イソシギ、カワセミ、ノビタキ<br/>セッカ、コサメビタキ、コムクドリ</li> <li>底生動物: ミドリビル、ヨコミゾドロムシ、ホソヨコミゾドロムシ</li> <li>陸上昆虫類: シルビアシジミ、オオサカヒラタシデムシ</li> <li>小動物: ニホンヤモリ、カヤネズミ、イタチ属の一種</li> <li>魚類: ウナギ、タモロコ、カマツカ、コウライモロコ、ドジョウ、ギギ、メダカ、カワアナゴ、ウキゴリ</li> </ul> |



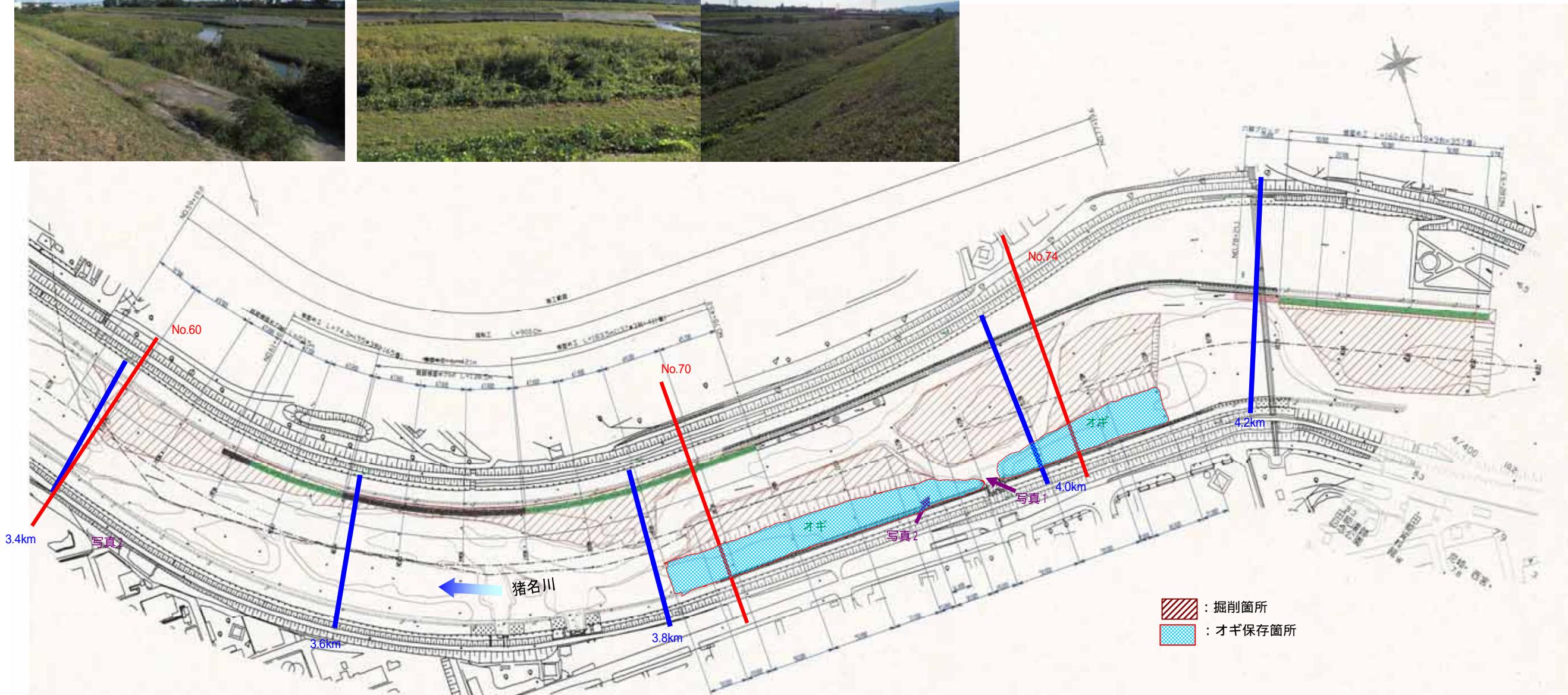
## 椎堂河道掘削工事の掘削範囲(再検討)および現況写真



A photograph showing a wide, open grassy field. In the foreground, there is a low, dark-colored fence. The field is covered in green grass. In the background, there is a long, low building with a grey roof, surrounded by several tall evergreen trees. The sky is blue with some white clouds.

A landscape view of a green valley with a bridge in the background. The foreground is dominated by a grassy hillside. In the middle ground, a bridge spans a river. The background shows a city skyline under a blue sky with white clouds.

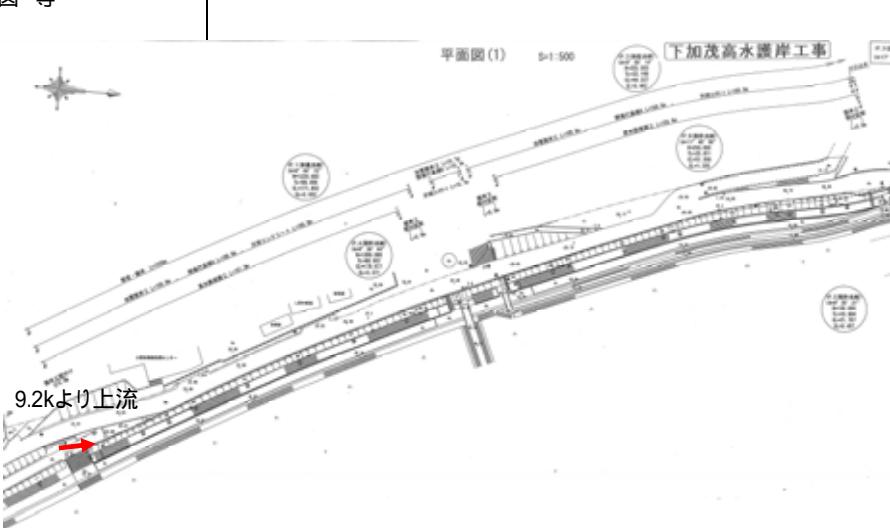
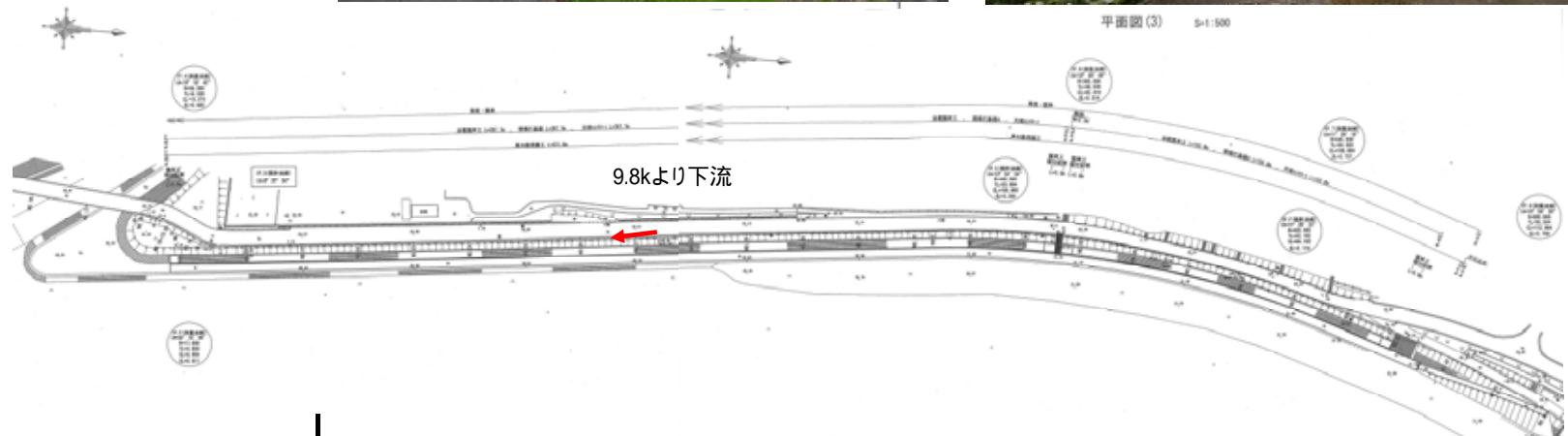
平成23年10月4日撮



A photograph showing a landscape with a road, a white van, and a tall electrical tower under a cloudy sky.

平成22年11月9日撮

## 下加茂高水護岸工事

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| 担当課：工務課                       |  |
| 工事名称                          | 下加茂高水護岸工事  |
| 工事目的                          | 目的<br>高水護岸工事1,039m<br><br>内容<br>高水護岸 1,039m<br>張芝工、覆土工、覆土ブロック張、高水敷保護工（コンクリート張）   |
| 工事場所                          | 猪名川9.2k~10.0k付近 右岸   |
| 工事期間                          |  |
| 工事位置図<br>断面図等                 |             |
| 自然環境の把握状況<br>(主に特定種の情報など)     | 鳥類: 10.0km地点でカワセミ、セッカ、カワウが確認されている(平成18年度河川水辺の国勢調査)<br><br>:工種から大きな影響が想定される類<br>:工種から影響が想定される類  |
| 調査の考え方                        |  |
| 環境上の配慮事項(案)                   | ・人工盛土部であることから特別な環境上の配慮は行わない。   |
| 上記の配慮を達成するための設計上、施工上の工夫・改良(案) |  |
| 調査方針(案)                       |  |
| 事前調査結果                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物: -</li> <li>鳥類: -</li> <li>底生動物: -</li> <li>陸上昆虫類: -</li> <li>小動物: -</li> </ul> <p>直接改変箇所およびその周辺では、動植物の重要な種および特筆すべき生育・生息環境は確認されなかった。</p> |

